



沖縄県小児保健協会50周年記念誌

こどもが輝く未来への物語

～これまでの50年、これからの50年～





公益社団法人 沖縄県小児保健協会
会長 宮城 雅也

50周年記念を迎え時の流れを感じております。アメリカ世からヤマト世への祖国復帰の翌年1973（昭和48）年、復帰記念沖縄特別国民体育大会（若夏国体）が開催されましたが、まだまだ日本国籍に慣れない時勢でした。その年の7月28日に沖縄県小児保健協会は産声を上げました。戦後、小児保健関係者は混乱した社会環境から、感染症を予防することや栄養状態を改善することを中心に、こども達の健康を守るため努力を惜しみませんでした。祖国復帰直後、より高いレベルの小児保健事業が行えるように小児保健協会が創立されました。そして数少ない小児科医による全県での乳幼児健診が50年経過した今も続いています。先見の明に長けた先人の方々に深く感謝を申し上げます。

本県での小児保健分野で築き上げた実績を発展させ未来へつなげるために、創立50周年のテーマは、「こどもが輝く未来への物語～これまでの50年、これからの50年～」としました。先人から引き継いだ実績をしっかりと振り返り、それを基に未来の小児保健のあるべき姿を語る多職種による座談会を行いました。そこではこども達の明るい未来への斬新な提言

が沢山され未来への基礎ができました。御一読をお願い申し上げます。

こどもを取り巻く社会環境は、我々の想像を越して変化しております。健康にあまり関心のなかった高度経済成長期からバブル経済の崩壊を迎え、ようやくこどもの健康に関心が向き始めました。エンゼルプラン、保健所法から地域保健法への改正、少子化社会対策基本法、次世代育成支援対策推進法、健康日本21、健やか親子21と様々な政策が打ち出されてきました。ここ数年では、国民のこどもに対する関心の高さから、成育基本法、こども基本法が施行され、2023（令和5）年4月にはこども家庭庁も発足しました。これからはこどもが人としての尊厳を守られていく、こども（人）中心社会が必要となります。

多くのこどもに関する法律が施行されても最も大切なのは、ハイリスクのこどもを支援するだけでなく、ハイリスクのこどもをなくす社会を目指さなくてはなりません。そのためには、誰一人取り残さないポピュレーションアプローチが重要となり、全てのこどもをフォローする乳幼児健康診査の重要性が益々大きくなっています。そこには多様性を重視した細かい対応が必要になります。一人一人を適切に支援するために膨大な情報が必要となるため、小児保健分野でのデジタルトランスフォーメーションを推進させていく必要があります。そしてめざすのは「こどもが輝く未来への物語」を創造することです。沖縄県小児保健のこれまでの50年からこれからの50年へ気持ちを込めて、50周年記念誌を作成しました。

今後とも皆様の暖かいご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。